

知ってとくとく 被害対策の「三本柱」と地域ぐるみ対策

—まずは“基本”を理解しましょう—

○はじめに

我が国の農業の歴史は、野生鳥獣との闘いの歴史でもあります。第二次世界大戦後から高度経済成長期にかけては、野生鳥獣の脅威が薄れた例外的な数10年間を過ごしました。しかし1990年頃から問題は再び顕在化し、現在に至っています。

ここでは、農業者が農作物被害対策に取り組む上で基本となる被害対策の「三本柱」と地域ぐるみ対策について解説します。



江戸時代に築かれたシシ垣
(愛知県岡崎市烏川町)

○被害対策の「三本柱」とは

- | | |
|---------|-------------------|
| ① 環境管理 | 鳥獣が寄りつきにくい環境を整える。 |
| ② 侵入防止 | 農地や集落を柵で囲って守る。 |
| ③ 捕獲・駆除 | 加害個体群を捕まえて退治する。 |

… つまり、**寄せない、入れない、捕まえる！！**

いずれもあまりにありきたりですが、当たり前のことを地道に実践する以外に道はありません。省力的で劇的な効果が得られる“夢の技術”に期待して手をこまねいているくらいなら、できることから取り組む姿勢が重要です。

○「三本柱」の具体例

(1) 環境管理

- ・集落環境点検とハザードマップづくり
- ・休耕地の整備や収穫残渣の片付け
- ・ニホンザルやカラスなどの追い払い



地域ぐるみで集落環境点検を行い、対策の進め方を話し合う

(2) 侵入防止

- ・柵や網などの資材による田畑の防御
- ・広域の侵入防止柵整備



極細ステンレスワイヤによるカキ園へのカラス侵入防止対策（岐阜県大野町、2018年）



ワイヤーメッシュによる広域の侵入防止柵整備

(3) 捕獲・駆除

- ・農地に侵入しようとする野生獣のわな等による捕獲
- ・広域の個体数調整



はこわなで捕獲されたイノシシ

○「三本柱」が抱える課題

いずれもごく当たり前のことであるにも関わらず、「三本柱」はいまだ様々な課題を抱えています。これらの課題をひとつずつ解決していくことこそが、鳥獣被害対策の本質であるともいえるでしょう。

(1) 環境管理

- ・問題や成果が見えづらく、意欲が続かない。
- ・**安易な手法**に走りがち = 各種の脅しグッズ、音や光。



集落環境点検は地味ながらも環境管理の基本



脅しグッズは効果が長続きしない

(2) 侵入防止

- ・間違った方法で柵を設置し、効果が得られない。
- ・柵などの管理が不十分で、効果が低下する。
 - = 電気さくのパッテリー切れや漏電、ワイヤーメッシュ柵の破損、防鳥ネットの破れ目。

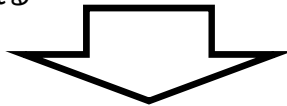


高さが甘い電気さくはくぐられる



破損した柵は補修が必要

そこで…



定期的に点検し…



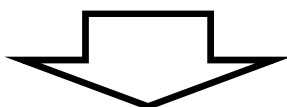
ちょっとした補修その場で実施

(3) 捕獲・駆除

技術的な課題も多々あるが、とにかく…

- ・公共事業的な捕獲活動に頼りがち(他力本願)
- ・捕獲従事者が減少している

そこで…



「有害鳥獣捕獲における狩猟免許を有さない捕獲従事者容認事業（環境省）」による農業者（地域住民）グループによる捕獲補助活動、狩猟に関心を寄せてもらうための活動など。



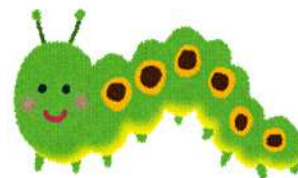
狩猟ワークショップ（愛知県野生イノシシ対策室、2019年）

○対策は地域ぐるみで！

(1) なぜ「地域ぐるみ」なの？

畑にヨトウムシやアブラムシが発生したら、当然ながら耕作者が自分で防除するでしょう。基本的には、野生鳥獣の場合も同じです。しかし、野生鳥獣は害虫と違って…

- ① 身体が大きく力が強い
- ② 学習能力があり、意図的に行動する
- ③ 農薬を使って駆除することができない



なので、**個人の対策ではおのずと限界**があるのです。

地域で力を合わせ、猟友会、市役所、県の農業普及指導センターなどの力も借りながら対策を進めましょう。

(2) 地域ぐるみ活動実現のポイント

野生鳥獣対策は「公共事業」ではありません！！なので、農業者・住民自らが実施するしかないのです。しかし…

- ・行政機関は施策目標があり、予算を使わなければならない。
- ・農業普及指導センターは、普及指導計画の到達目標に向けて活動したい。
- ・農業者・住民は、鳥獣対策のような面倒なことはできれば避けたい。

→ ふと気づけば、関係機関主導によるお仕着せに陥りがちです！！

農業者・住民主導の活動とするためのポイントは…

- ① 理想よりも現実を重視し、結果を焦らないこと
- ② 表面的な平等や公平にこだわりすぎないようにし、助け合うこと
- ③ 可能な限り女性、若年者をメンバーに加えること

○参考資料・文献

- 中国新聞取材班編、猪変(いへん)、本の雑誌社、2015
江口祐輔、イノシシから田畑を守る—おもしろ生態とかしい防ぎ方—、農山漁村文化協会、2003
江口祐輔、三浦慎吾、藤岡正博、鳥獣害対策の手引き、日本植物防疫協会、2002
福与徳文、地域社会の機能と再生：理論と実践、農業1665号、2020
井上雅央、山の畑をサルから守る—おもしろ生態とかしい防ぎ方—、農山漁村文化協会、2002
井上雅央、これならできる獣害対策、農山漁村文化協会、2008
高橋成紀、シカ問題を考える バランスを崩した自然の行方、ヤマケイ新書、2015
寺本憲之、鳥獣害問題解決マニュアル 森・里の保全を地域づくり、古今書院、2018
山端直人、地域社会のための総合的な獣害対策 被害防除・個体数管理・集落支援・関係機関の体制づくり、平成29年度鳥獣被害対策基盤支援事業 地域リーダー育成研修(集落)、2017
野生鳥獣被害防止マニュアル企画編集委員会、野生鳥獣被害防止マニュアル—総合対策編—、平成30年度鳥獣被害対策基盤支援事業 地域リーダー育成研修(集落)、2018

2020年9月発行

お問い合わせ

愛知県 農業総合試験場 企画普及部広域指導室

所在地 〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

電話 0561-62-0085 (内線346) FAX : 0561-63-0815